

広報ほんべつ

# 本別

いいひと いいまち いきいきほんべつ

HONBETSU

Mar 2012.3  
No.1001

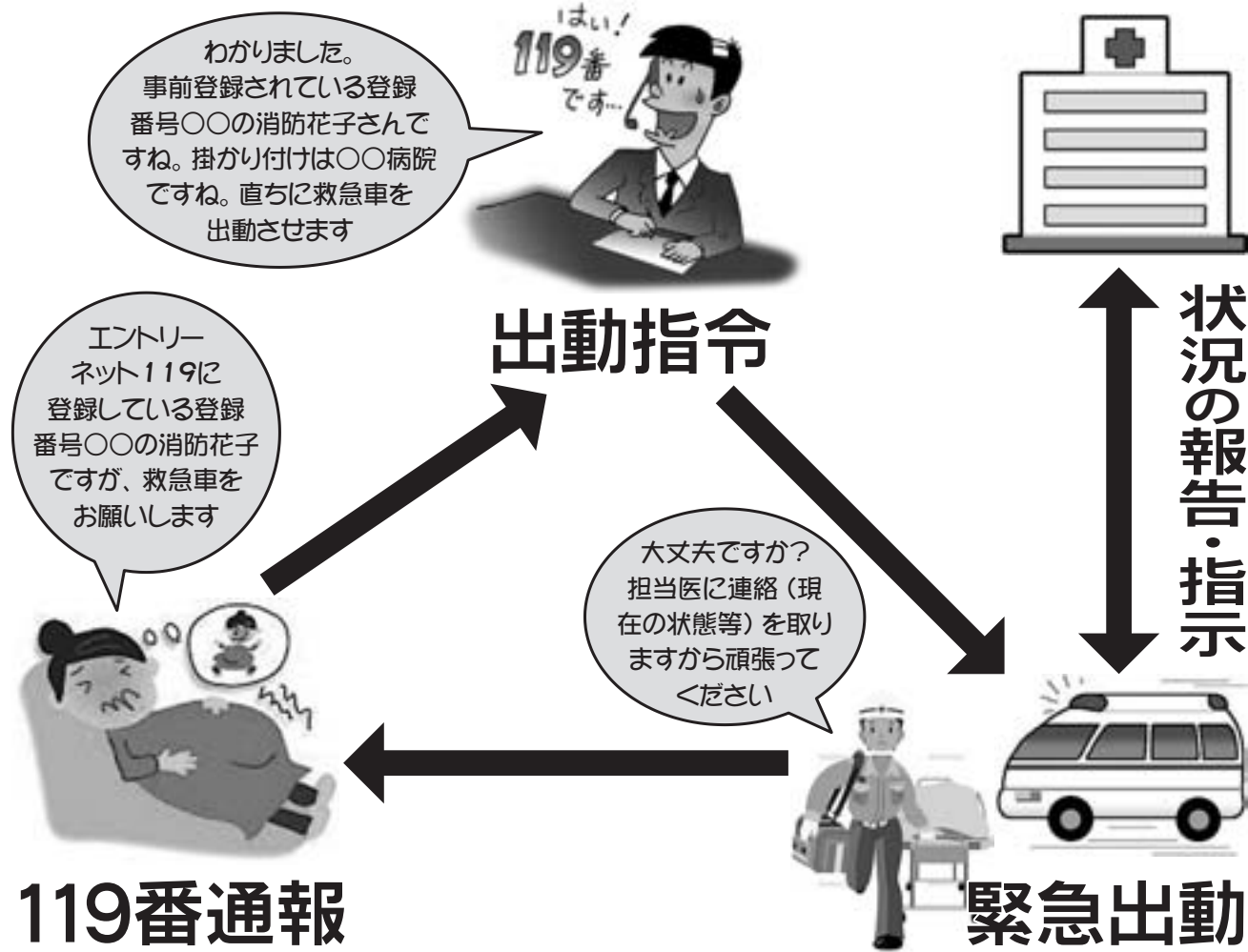


## 妊婦エントリーネット119

妊婦さんの緊急時、救急車で搬送

4月1日から妊婦情報事前登録制度がスタートします

# 妊婦エントリーネット119の流れ



## すでに母子手帳の交付を受けた人は…

4月1日時点ですでに母子手帳の交付を受けている人には、3月中に郵便で案内を送付します。また、里帰り出産のため、本別町に帰省している妊婦さんも登録することができますので、詳しくはお問い合わせください。



## 登録後、「エントリーネット119」を利用せず無事出産を終えた人は…

無事出産を終えた場合は出産した旨、本別消防署にご一報ください。なお、連絡がない場合は、出産予定日から1か月経過後、登録の抹消をさせていただきます。また、この登録において知り得た個人情報は登録抹消後、責任をもって廃棄しますので、ご了承ください。

お問い合わせ  
 本別消防署警防課救急係  
 0222-2007

**一般の救急要請は？**  
 これまで通り直近の救急告示病院（※1）である町国保病院に搬送する救急搬送体制になっています。同病院に収容後、帯広市などへの搬送が必要な場合は、医師の指示要請により、医師または看護師が同乗して搬送することになります。  
 直接帯広市などへの搬送の依頼をされても搬送することはできませんので、ご了承をお願いします。  
 ※1 救急告示病院とは  
 消防法の規定により救急隊が搬送する傷病者の医療を担当する医療機関。救急医療に必要な要件を満たした病院を都道府県知事が認定しています。

# 妊婦エントリーネット119

妊婦さんの緊急時、救急車で搬送  
 4月1日から妊婦情報事前登録制度がスタートします

**救急搬送の対象となる場合**

- 妊婦さんが出産のきざし（陣痛など）や、破水が始まり自力での医療機関への受診が困難な場合
- 妊婦さんが腹部などに異常や出血が見られ、緊急な治療が必要と判断された場合
- その他緊急とされる場合（担当医師からの要請等）

本別消防署では、妊婦さんの負担や不安を解消するため、4月1日から出産予定日や医療機関、母体の情報などを事前に登録することで、緊急時に直接かかりつけの医療機関へ搬送する妊婦情報事前登録制度『妊婦エントリーネット119』がスタートします。

この制度は妊婦さんから救急要請があった場合、出産予定病院の医師または助産師の判断のもと、緊急に搬送する必要がある場合や、救急車でなければ搬送不可能な場合に、出産予定病院へ直接搬送するほか、容態に応じ担当医師から指示を受け、他の病院へ搬送することで救急搬送の迅速化を図ります。

十勝管内では、すでに8町が同様の制度を導入しており、本別町でも、産科施設から遠隔地であるという不安や負担を軽減し、医療機関へのスムーズな搬送によって、安心して出産ができるようにサポートしていきます。

# エントリーネットQ&A

**健康管理センターで母子手帳を申請する際、『妊婦情報事前登録届出書』をお渡しします。この届出書に「出産予定日」や「医療機関」など必要事項を記載し健康管理センターまたは本別消防署に提出してください。**

**登録申請後、登録はいつ完了しますか？**  
 申請後、消防署から自宅の場所など登録内容について再度電話で確認をします。その後、郵便で登録カードを送付します。登録カードが届きましたら登録完了です。

**医療機関へ登録の連絡は必要ですか？**  
 登録したことをかかりつけの医療機関へ連絡する必要はありません。

**救急車はどのように要請したらいいですか？**  
 119番通報をして名前と妊婦情報事前登録番号を言って、症状等を伝えてください。  
 あとは救急隊と医療機関が連絡を取りながら、救急車を自宅に向けて出動させます。



本別中央小学校



杉本エナジ(有)



点灯式



本別中学校



雪中宝さがし



本別高等学校



**キャンドルコンクール  
入賞者**

最優秀賞 共栄わらう会  
優秀賞 弥生町自治会  
雪あかりナイト賞  
杉本エナジ(有)  
特別賞 塚林英会話教室



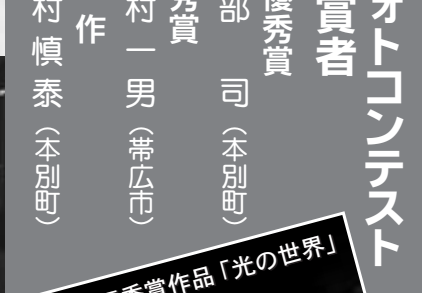
本別建築士会製作の「かまくら」



がんばれ東北! 鈴木時計メガネ店



塚林英会話教室



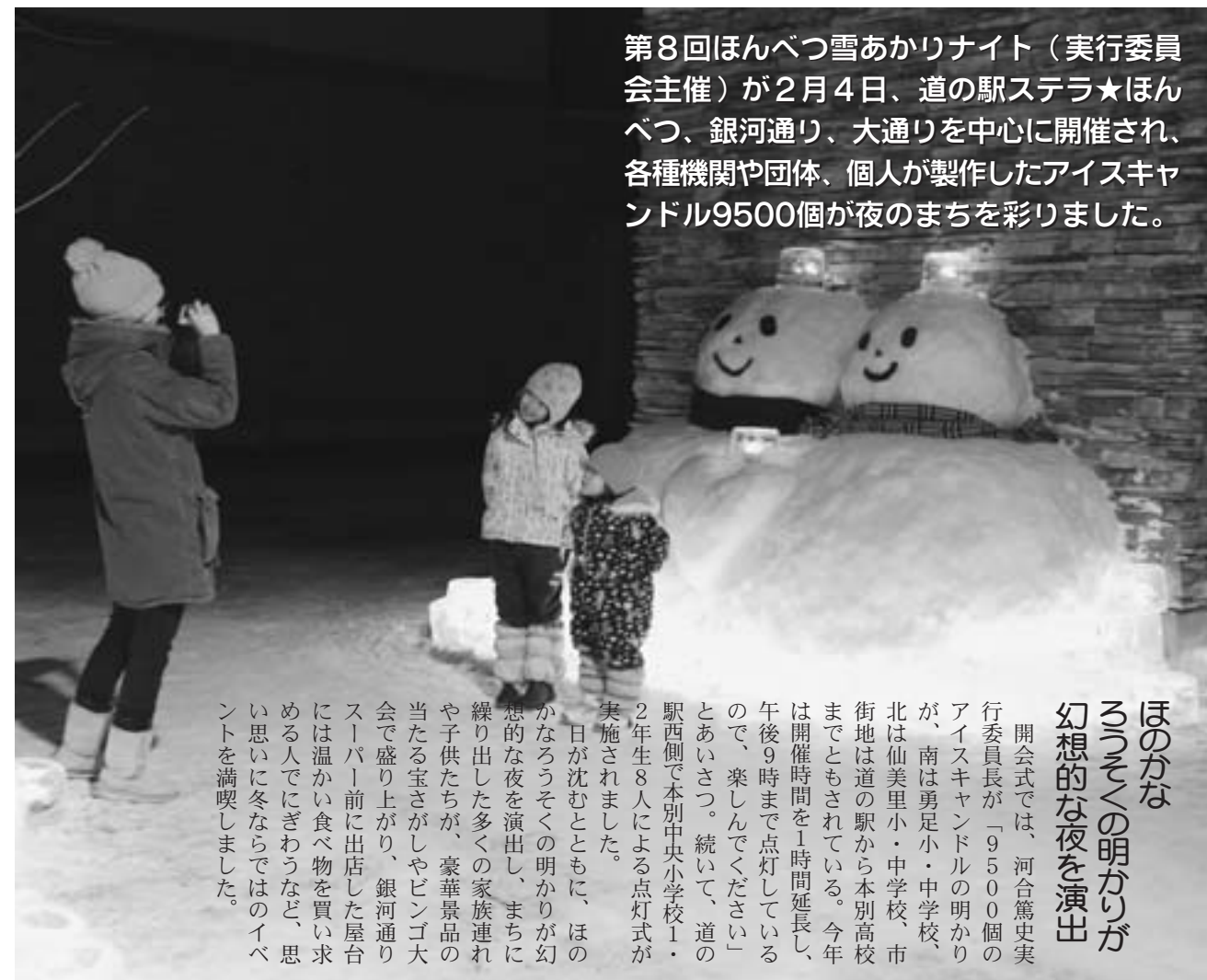
最優秀賞作品「光の世界」



本別町商工会



ビンゴ大会



第8回ほんべつ雪あかりナイト(実行委員会主催)が2月4日、道の駅ステラ★ほんべつ、銀河通り、大通りを中心に開催され、各種機関や団体、個人が製作したアイスキャンドル9500個が夜のまちを彩りました。

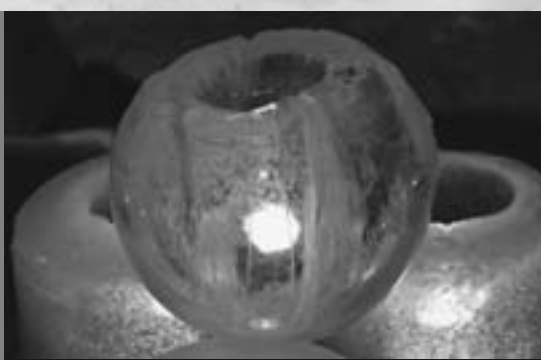
ほんべつのかな  
るつきくの明かりが  
幻想的な夜を演出

開会式では、河合篤史実行委員長が「9500個のアイスキャンドルの明かりが、南は勇足小・中学校、北は仙美里小・中学校、市街地は道の駅から本別高校までともされている。今年開催時間を1時間延長し、午後9時まで点灯しているので、楽しんでください」とあいさつ。続いて、道の駅西側で本別中央小学校1・2年生8人による点灯式が実施されました。

日が沈むとともに、ほんべつかなろうそくの明かりが幻想的な夜を演出し、まちに繰り出した多くの家族連れや子供たちが、豪華景品の当たる宝さがしやビンゴ大会で盛り上がり、銀河通りスーパ―前に出店した屋台には温かい食べ物を買求める人でにぎわうなど、思い思いに冬ならではのイベントを満喫しました。



**雪あかり  
ナイト**



河合実行委員長



共栄わらう会



那須淳市氏

佐藤正秀氏

高橋正夫町長

福留 強氏



# 全国生涯学習市町村協議会フォーラム

北海道大会

「空き活用」とまちづくり研修会

全国生涯学習市町村協議会（会長 高橋正夫本別町長）主催による全国生涯学習市町村協議会フォーラム北海道大会「空き活用」とまちづくり研修会が2月11日、中央公民館で開催されました。空きスペースを活用したまちづくりをテーマに基調提言や先進地事例研究報告、シンポジウムなどが行われ、参加した自治体職員など約150人が、その活用方法について学びを深めました。

## 基調提言

「過疎と高齢化から脱却するまちづくり」

聖徳大学生涯学習研究所長 福留 強氏

福留所長は、過疎と高齢化が進む地域での様々な現状と課題を挙げ、そういった地域から脱却するためには、行政に頼らない町民活動による地域の活性化や町民がどういったまちをつくりたいかのビジョンをしっかりと持つこと、地域資源である空き施設の有効活用などが大切であると述べました。

最後に、学習することで地域が一体になり、それが活性化につながる。役所が全てやるのではなく、住民が共に活動していくことが重要であると強調しました。

## 基調報告

「わがまちの『空き』活用と地域活性化」

—ふるさと銀河線駅舎・跡地を活かしたまちづくり—

本別町長 高橋正夫

高橋町長は、本別町の鉄道の歴史について触れ、平成18年4月20日に多くの町民が涙で最後の日を迎えたことを紹介。残された旧駅舎エリアを交流拠点として、どのようにまちの活性化につなげていくかが課題であったと述べました。

現在は、道の駅として生まれ変わり、農産物加工施設も完成するなど、廃線に後ろ向きにならずに整備を続けてきたことを説明し、今後も活性化するまちづくりを進めるために努力をしてくと力強く語りました。

## 事例研究

「地域の活性化と『空きスペース』の効果的な活用」

「廃校を利用したまちづくり」

新冠町総務企画課総括主幹 佐藤正秀氏  
砂川商工会議所専務理事 那須淳市氏

佐藤氏は、平成20年3月に町内の9小学校を2校に統合し、廃校になった7校をネット等を活用し全て公売した事例を発表。苦労も多かったが、老人ホームなどの様々な形態で使われており、雇用も生まれていることを紹介しました。

那須氏は、少子高齢化により人口が減少し、中心市街地が衰退したため、空き店舗などを活用するための砂川商工会議所の事例を紹介。まず民が取り組み、行政に手を借りるのは最後であると強調しました。

## シンポジウム

「地域資源の活用とまちづくり」

パネリスト

「みんなの廃校プロジェクト」 杉浦健太郎氏（文部科学省文教施設企画部施設助成課課長補佐）  
「まちづくり教育」 河田祥司氏（教育技術法則化運動TOSSOリープ代表）

「空き施設活用の現状と課題」 田上大輔氏（教育技術法則化運動TOSSO北海道事務局次長）  
「コディネーター」 竹中 貢氏（上士幌町長）

福留 強氏（聖徳大学生涯学習研究所長）

「地域資源の活用とまちづくり」をテーマに、4人のパネリストがそれぞれ、助成制度や事例を紹介しました。

杉浦氏は、毎年全国で500校近くが廃校になっており、中でも北海道がダントツトップであること説明し、それを活用する様々な助成制度があることについて触れました。

河田氏は、商店街を活性化させる「にぎわいの法則」について、田上氏は、まちづくりのために、地域・親・教師のつながりを作る取り組みについて紹介。

竹中氏は、民間企業と連携して実施している廃校を利用した林間学校や空き家などを活用したテレワーク実証事業などについて説明し、都市部、農村部にはそれぞれ役割があり、様々な人の知恵がコラボするとよい知恵が生まれると述べました。

最後に福留氏は、先進地に学びながら、それぞれが持っている良いものを持ち寄り、観光に結びつけることがまちづくりにつながると語りました。

# 電力新時代！ 太陽の丘に太陽の恵み

## 太陽の丘に大規模太陽光発電施設 (メガソーラー)建設

再生可能エネルギーへの電力転換の期待が高まってきている中、本別町の太陽の丘に大規模発電施設(メガソーラー)建設に向けての基本合意が2月23日、国際航空ホールディングス株式会社との間で結ばれました。



日本の電力のほとんどは火力(石油、LNG、石炭など)、水力、原子力発電によってまかなわれていきます。しかし、火力は、化石燃料のため有限で、枯渇の危険や温室効果ガス発生への避けられない問題を抱え、また、原子力は、3・11東日本大震災による福島第一原発の事故以降、原子力に対する安全神話が崩壊し、この春には日本の原子力発電所のすべてが稼働停止となる可能性が出てきており、これらを補完する次世代の発電手段として、再生可能エネルギーへの期待が高まっています。

そんな中、政府による再生可能エネルギーの全量買取制度の創設により、民間事業者による参入が容易になったことから、年間日照時間が全国でも屈指である本別町もその誘致に乗りだし、太陽光発電を行う環境としても注目されています。



問い合わせ 企画振興課 商工観光・元気まち担当 ☎22-8121

イメージ図

### メガソーラー設置の概要

**建設場所** 西美里別8番地11外(太陽の丘医療・保健・福祉ゾーン)

**敷地面積** 約2万平方メートル

**設備規模** 約1000kw

**稼働時期** 平成24年秋ごろを予定

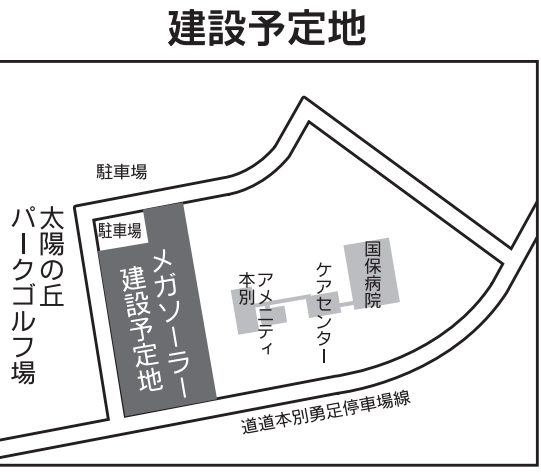
**総工費** 約3億3千万円程度

**運営事業者** 国際航空ホールディングス株(東京都)

**国際航空ホールディングス株**  
航空写真測量による空間情報コンサルティング事業などを手がける。環境・エネルギー問題にいち早く注目し、その中でも再生可能エネルギーとして最も期待される「太陽光発電」事業にも参入。国内では宮崎県、群馬県でメガソーラーを手がけ、海外では欧州4か国24か所で太陽光発電所を開発しています。

### 建設予定地は太陽の丘

メガソーラー建設は、平成12年4月に総合運動公園予定地34ヘクタール内にオープンした、町国保病院、総合ケアセンター、老人保健施設を包括する医療・保健・福祉ゾーンの一角で、介護老人保健施設アミニティ本別の西側を予定。町の福祉施設の町内分散化に伴い空き地となつていたため、空きスペースを有効活用するものです。



### メガソーラー誘致による町のメリット

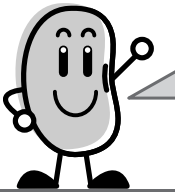
本別町において再生可能エネルギーを生産することにより温室効果ガス削減に寄与し、結果、本別町の示す新エネルギー政策の推進に結びつきます。また、長期的な土地の賃貸契約による土地使用料収入や設備に対する固定資産税など、本町の収入確保につながるというメリットが生まれてきます。

メガソーラーの誘致については、本町の恵まれた環境に期待する事業者がまだ、施設の建設を模索しています。本町としては、中長期的な視点に立った誘致活動を展開していきます。

※今後の国および電力事業者の動向により、計画が見直されることもあります。

**再生可能エネルギーとは**  
自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー。新エネルギー(中小水力・地熱・太陽光・太陽熱・風力・雪氷熱・温度差・バイオマスなど)、大規模水力、および波力・海洋温度差熱などのエネルギーを指します。

**メガソーラーとは**  
1メガワット(1000キロワット)を超える大規模な太陽光発電施設のこと。1メガワットのメガソーラー発電では、一般家庭約250世帯分の電力を発電できるとされています。



# 国民年金

こんなときは国民年金の手続き(種別変更)が必要です！

- ◎第1号被保険者…自営業者や学生など
  - ◎第2号被保険者…厚生年金や共済組合の加入者
  - ◎第3号被保険者…第2号被保険者に扶養されている配偶者(収入が一定額を超えない人)
- の3種類に区分されています。ご本人や配偶者の就職・転職、結婚などで国民年金の加入の種類(種別)が変わることがあり、左記の表のように、種別変更等の手続きが必要となる場合があります。
- 手続きをされなかった場合は、病気やけがで障がいが残ったときや、死亡した場合の障害年金・遺族年金を受け取ることができなくなる場合がありますので、必ず手続きしてください。

こんなとき	被保険者の種別	手続き先
学生やフリーターなど、厚生年金や共済組合に加入していない人が20歳になったとき	未加入→第1号	住民課戸籍年金担当
第2号被保険者に扶養されている配偶者が20歳になったとき	未加入→第3号	配偶者の勤務先
配偶者が就職して第2号被保険者になり、その第2号被保険者に扶養されるようになったとき	第1号→第3号	配偶者の勤務先
第2号被保険者が60歳になる前に、会社などを退職したとき	第2号→第1号	住民課戸籍年金担当
第2号被保険者である人が会社などを退職し、第2号被保険者である配偶者に扶養されるようになったとき	第2号→第3号	配偶者の勤務先
第2号被保険者(配偶者)に扶養されていた人で、その配偶者が退職したとき	第2号→第1号	住民課戸籍年金担当
年金受給資格がある第2号被保険者(配偶者)が65歳になり、その配偶者に扶養されていた人が60歳未満のとき	第3号→第1号	住民課戸籍年金担当
パート収入が130万円を超えたときなど、配偶者の扶養から外れたとき	第3号→第1号	住民課戸籍年金担当

詳しくは  
住民課戸籍年金担当へ  
☎22-8128

その119

# 小学生・中学生の

## 「町長と語る会」

次代を担う子供たちと町長が語り合う、平成23年度小学生・中学生の「町長と語る会」が2月15日、町体育館で開催され、出席した町内各小・中学校の代表12人は、まちづくりや人づくりなどについて積極的に意見交換をし、充実した時間を過ごしました。

### 将来の夢、まちづくりについて語り合う

語る会は、高橋正夫町長の「緊張しないで、普段通りに、将来の夢などを聞かせてください」とのあいさつでスタートし、一人ひとりが、自己紹介を兼ね学校紹介や児童会・生徒会での取り組みなどについて発表しました。

続いて、『自分の将来の夢』についてでは、それぞれが「小説家になりたい」「農家を引き継ぎたい」「水泳選手になりたい」などの夢を語り、高橋町長は「夢は実現できる。夢に向かって頑張ってください」とエールを送りました。『自分達の住んでいるまち、地域の良いと思うこと』では、学校単位で発表があり、「みんなやさしい」「イベントが多くて楽しい」「自然が多く、空気がおいしい」などの意見が出されたほか、『本別町をより良いまちにしていきたい』では、「自分の住む地域にコンビニがあったらいい」「部活の終わりに合わせて、スクールバスを走らせてほしい」「図書館や体力増進センターの休館日が重なるのでずらしてほしい」などの要望も挙げられ、高橋町長は「できることを、しっかりやっていきたい」と述べました。最後に、『町長に聞きたいこと』では、「気を付けていること」や「やりがいのある仕事」などの質問があり、高橋町長は「健康に気を付けている。皆さんの笑顔があふれ、子供たちの元気に遊ぶ姿が見られる仕事にやりがいを感じる」と答えました。



学校での取り組みを説明する出席者



# 道徳教育特別非常勤講師派遣事業

## 障がい乗り越えて見えたもの

本別中央小学校（岩野真志校長、272人）の4年生から6年生を対象とした道徳教育特別非常勤講師派遣事業が1月24日、本別中央小学校で開催され、パラリンピックアルペンスキー競技日本代表選手の田中哲也さんが、何事もあきらめないで挑戦する心の大切さや、健常者も障がい者と一緒にスポーツができることをドッジボールや、バスケットボールなどの実践を通じて児童らに伝えました。



自分の不注意から19歳の時交通事故を起こし、右足を失った田中さんは、「自分の身は自分しか守れない。事故などには十分気をつけて」と啓発するとともにこれまでの人生について語りました。義足の生活に慣れたこの障がい者スキーに出会った瞬間を始めた田中さん。その後、ジャパンパラリンピックで上位入賞し、長野およびソルトレイクパラリンピックへ出場を果たしました。障がいの違いによって、デフリンピック（聴覚障がい者）やスペシャルオリンピックス（知的障がい者）などがあることをパネルで紹介したほか、自分の義足を外し、義足がどのように動くのか、どのような道具を使い競技をするかなどを説明し、「負けたら終わりではないーやめたら終わりー」「微力な力だけど無力ではない」と続けることの意義を唱えました。児童らからは「もし何かにつまづいたら、田中さんを思い出して前に進んでいきたい」、「義足をかせてくれてありがとう」と感謝の言葉が贈られ、最後に「あきらめは最大の敵。何事も敵は自分。目標をもって前に進んでほしい」と大人になっていく子供たちへエールを送りました。



# 支えよう公共交通

## Part 2

### 誰でも利用できる 太陽の丘 循環バス編①

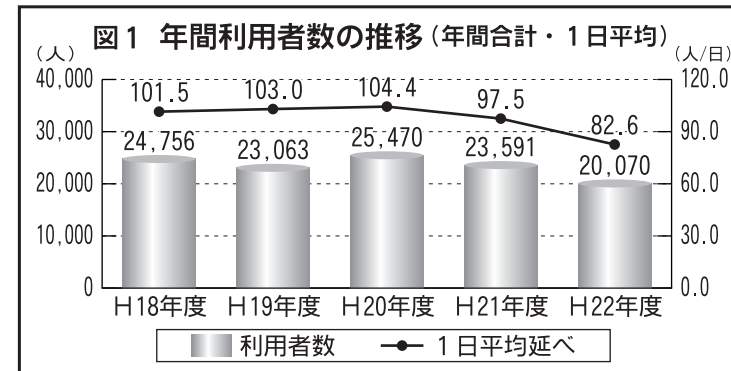
太陽の丘循環バスは、町国保病院の移転に伴い、市街地区と国保病院を結ぶ循環バスとして、平成12年4月から運行しています。

南回りコース、北回りコース、直行便の3コースがあり、平日のみ運行しています。

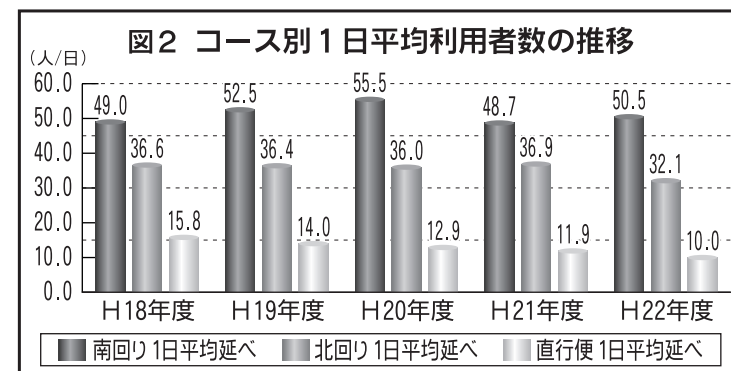
利用運賃は、乗車1回につき100円で、65歳以上の人は「無料証明書」の発行を受けることで無料で乗車することができ、通院以外にも、誰でも利用することができ、今後、生活の利便性を図るコミュニティバスとしての機能を向上させ定着を図ります。

### 利用実績

年間利用者数(図1)の過去5年間の平均は、約2万3000人で推移しており、1日平均では約100人となっております。コース別利用者数(図2)では、過去5年間の平均で南回り

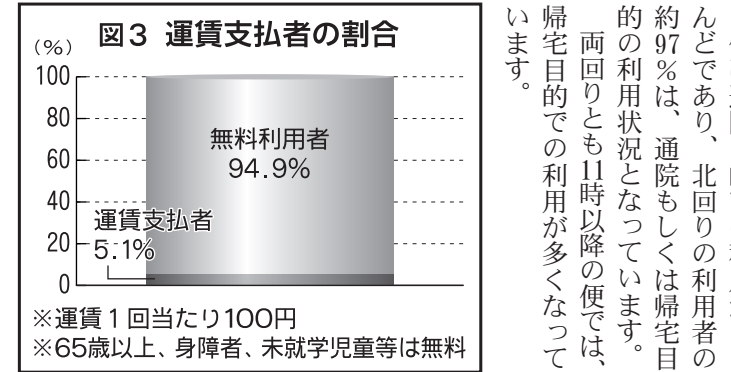


が1日平均約52人、北回りが約36人、直行便が約13人となっております。南回りの利用者が多い状況となっております。平成21年度の別平均利用者数では、ピークは10時台・11時台で、南回りの11時台の便が平均14人と最も多く、夕方の便は比較的に利用が少ない状況となっております。



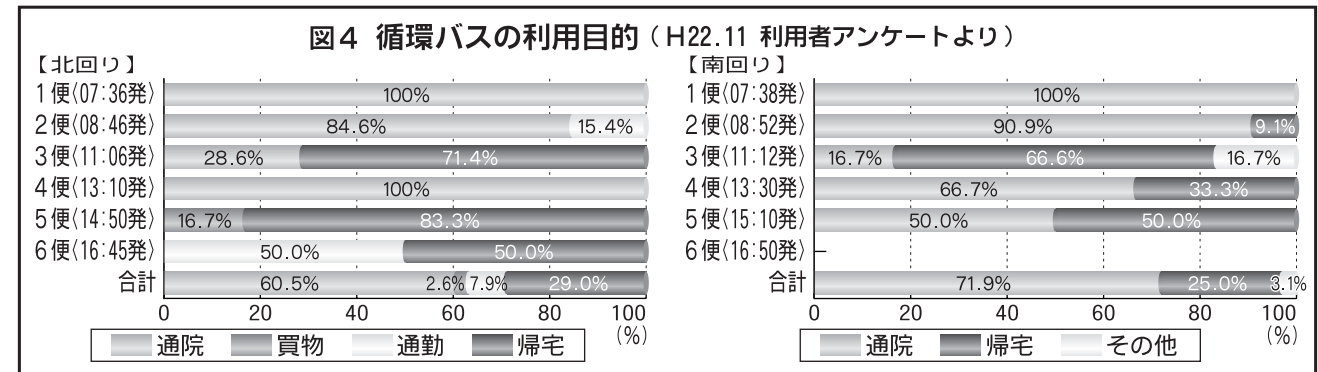
### 運行費用と 運賃収入(図3)

運行にかかる費用は、年間約1000万円。それに対し運賃収入は年間約12万円(1日平均約500円)と少ない状況です。その理由は、利用者の約95%が主に65歳以上の無料利用者であるためです。



### 循環バスの 利用目的(図4)

北回り・南回りともに、1.2便は通院目的での利用がほとんどであり、北回りの利用者の約97%は、通院もしくは帰宅目的の利用状況となっております。南回りとも11時以降の便では、帰宅目的での利用が多くなっています。



## 太陽の丘 循環バスが もっと便利に

### 4月1日から 一部運行体系が 変わります

#### 近道コースを新設します

○北回り・南回りそれぞれ16時台の最終便については、近道コースとして1便運行とします  
○乗車可能な停留所は、病院、活性化センター、本別道の駅の3か所となり、以降、利用者の降車予定により、原則、北回り南回りの順に最短ルートでの運行を行います  
○乗車する際に降車場所を乗務員にお知らせください

#### バス停留所以外でフリー降車 ができるようになります

○全路線、全便において、交通量が多い区間(国道)や乗務員が危険と判断する区間(橋・坂の途中等)を除いた区間において、自由な場所で降りることが出来ます  
○フリー降車を希望する場合は、乗車する際に、フリー降車する場所を乗務員にお知らせください

### 太陽の丘循環バス(新)運行時刻表 <平成24年4月1日予定>

#### 【南回りコース】

停留所	発着時刻
⑭ 病院 発	8:46 11:06 13:10 14:50
① 活性化センター	7:36 8:51 11:11 13:15 14:55
② 本別道の駅	7:39 8:54 11:14 13:18 14:58
③ 南2丁目	7:42 8:57 11:17 13:21 15:01
④ 旧NTT前	7:44 8:59 11:19 13:23 15:03
⑤ 義経橋	7:47 9:02 11:22 13:26 15:06
⑥ 東町梅津宅前	7:50 9:05 11:25 13:29 15:09
⑦ ふれあい交流館	7:53 9:08 11:28 13:32 15:12
⑧ 柏木町	7:56 9:11 11:31 13:35 15:15
⑨ みどり公園前	7:59 9:14 11:34 13:38 15:18
⑩ 共栄集会場	8:02 9:17 11:37 13:41 15:21
⑪ 開建除雪センター	8:05 9:20 11:40 13:44 15:24
⑫ 南4多東組資材置場前	8:08 9:23 11:43 13:47 15:27
⑬ 南4丁目 棚沢宅前	8:11 9:26 11:46 13:50 15:30
⑭ 病院 着	8:15 9:30 11:50 13:54 15:34

#### 【近道コース】新設

停留所	発着時刻
病院 発	16:35
活性化センター	16:40
本別道の駅	16:43
山手町 遠山宅前	
錦町 会館前	
北地区交流センター前	
清流町 山根宅前	
栄町 通り	
栄町 児童館前	
新町 公園前	
子育て支援センター前	
南2丁目	
旧NTT前	
義経橋	
東町 梅津宅前	
ふれあい交流館	
柏木町	
みどり公園前	
共栄集会場	
開建除雪センター	
南4多東組資材置場前	
南4丁目 棚沢宅前	
病院 着	

※近道コースは、病院、活性化センター、本別道の駅以外は乗車できません

※近道コースの本別道の駅以降は、利用者の降車地に応じて、原則、北・南地区の順に最短ルートを運行します

運賃は1乗車100円。ただし、未就学児童や身体障害者手帳、療育手帳の交付を受けている人、または満65歳以上の人は無料となります。

#### 【北回りコース】

停留所	発着時刻
⑪ 病院 発	8:52 11:12 13:30 15:10
① 活性化センター	7:42 8:57 11:17 13:35 15:15
② 本別道の駅	- - - 13:38 15:18
③ 山手町 遠山宅前	7:45 9:00 11:20 13:41 15:21
④ 錦町 会館前	7:47 9:02 11:22 13:43 15:23
⑤ 北地区交流センター前	7:50 9:05 11:25 13:46 15:26
⑥ 清流町 山根宅前	7:53 9:08 11:28 13:49 15:29
⑦ 栄町 通り	7:58 9:13 11:33 13:54 15:34
⑧ 栄町 児童館前	8:02 9:17 11:37 13:58 15:38
⑨ 新町 公園前	8:07 9:22 11:42 14:03 15:43
⑩ 子育て支援センター前	8:10 9:25 11:45 14:06 15:46
⑪ 病院 着	8:15 9:30 11:50 14:11 15:51

#### 【帰路直行コース】

停留所	発着時刻
病院 発	10:30 12:20 14:30 16:00
活性化センター 着	10:35 12:25 14:35 16:05

問い合わせ 健康管理センター ☎22-2219

# まちの行方

## 第4部

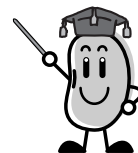
### 第4次行財政改革大綱・推進計画を策定

メインテーマ 町民と行政が共に担う「新しい公共」を目指して

本別町行政改革推進本部会議（本部長 高橋正夫本別町長）が2月6日、役場で開催され、先に、本別町行政改革推進委員会（今野公明委員長）から提出された答申に沿って、第4次本別町行政改革大綱・推進計画（平成23年度～平成27年度）を策定しました。

#### 第4次行財政改革推進計画

※推進計画は、8項目からなっており、今号では、次の2項目について報告いたします



#### Ⅱ 民間委託等の推進

【主な取り組み】

★効率的な施設の管理運営の見直し  
公共施設の利用度や管理業務量を勘案し、管理人の一元化、経費の省力化を進めます。

★新しい公共による施設の管理・運営  
簡素で効率的な行政経営を目指し、公共施設の管理運営については、町民と行政が共に担う「新しい公共」による運営を目指します。

★スクールのバスによる民間委託の推進  
スクールバスの運行路線については、少子化による乗車人員が減少していることから、バスの小型化、民間委託を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

★防炎行政無線の整備  
防炎行政無線の更新時期を見据え、防炎無線の整備方法について、調査・検討を進めます。

#### 公共施設の在り方について検討します

推進計画に基づき、公共施設の在り方の見直しを実施し、類似施設の統廃合、管理人等の一元化や指定管理者制度導入等の検討を進めます。

さらに、全ての施設を対象に公的関与の必要性（町が直接管理運営する必要がある施設なのか、民間に委託した方が住民にとって良いのか）を検討し、管理運営方針を定めます。

施設区分	施設数	主な施設
レクリエーション、スポーツ施設	28	義経の里御所・道の駅・観光情報センター・町民水泳プール・ふれあい多目的アリーナ・町体育館など
医療、社会福祉施設	12	保育所・老人ホーム・児童館・生活館など
文教施設	16	中央公民館・図書館・学校給食共同調理場など
集会所	20	コミュニティセンター・地区集会場など
庁舎施設その他	6	役場庁舎・総合ケアセンター・公営住宅など
計	82	

会議結果は、町ホームページで公開しています。

【本別町公式ホームページアドレス】  
<http://www.town.honbetsu.hokkaido.jp/public/policy/gyoukaku.html>



道の駅「ステラ☆ほんべつ」

義経の里本別公園

町体育館

※全ての施設を対象に検討を進めます

問い合わせ 企画振興課 行政改革担当 ☎22-8121



### 私たちが4月から1年生

平成24年度新入学児童名簿（学校別50音順）

町教育委員会では、今年4月に小学校へ入学する児童の名簿を作成し1月末に保護者宛てに就学通知書を送付しています。今年の新生児は、平成17年4月2日から平成18年4月1日までに生まれた児童で、本別中央小学校52人、勇足小学校8人、仙美里小学校6人の合わせて66人です。該当する人で名簿からもれていたり、就学通知書が届いていない人がいましたら、早めに教育委員会管理課学校教官担当（☎222331）にご連絡ください。

#### 本別中央小学校 (52人)

- 荒井 岩川 飯田 石川 井出 井出 井出 伊藤 伊藤 伊藤 伊藤
- 岩本 大塚 岡崎 岡崎 鎌田 菊池 北野 木下 木下
- 瑞紀 真理子 花音 小塔音 龍音 深月 歩月 璃子
- 岩本 大塚 岡崎 岡崎 鎌田 菊池 北野 木下 木下
- 瑞紀 真理子 花音 小塔音 龍音 深月 歩月 璃子
- 岩本 大塚 岡崎 岡崎 鎌田 菊池 北野 木下 木下
- 瑞紀 真理子 花音 小塔音 龍音 深月 歩月 璃子
- 岩本 大塚 岡崎 岡崎 鎌田 菊池 北野 木下 木下
- 瑞紀 真理子 花音 小塔音 龍音 深月 歩月 璃子



平成23年度 本別中央小学校入学式

#### 勇足小学校 (8人)

- 井原 岡本 岡本 加藤 久木 竹村 森林
- 来龍 龍二 力斗 優斗 莉子 楓
- 実聖 聖二 聖二 聖二 聖二 聖二 聖二

#### 仙美里小学校 (6人)

- 梅津 太田 佐川 篠原 伏見 湯山
- 亮光 光亮 光亮 光亮 光亮 光亮
- 静香 静香 静香 静香 静香 静香

（2月22日現在）



## 健康長寿の まちづくり会議

1/26

平成23年度第3回本別町健康長寿のまちづくり会議（三枝金作会長）が1月26日、総合ケアセンターで開かれました。会議では、「介護手当支給」の新規申請受け付けの廃止と「敬老祝金」の77歳への給付取り止めを検討する方向を決めたほか、4月からスタートする「第5期銀河福祉タウン計画」「第3期障がい福祉計画」「第4期障がい者保健福祉計画」策定について、活発な意見交換がされました。



## 本別町鏡開き 少年柔道大会

1/29

本別町鏡開き少年柔道大会（本別柔道連盟主催）が1月29日、町柔剣道場で開催されました。大会は3部門の個人戦で実施され、幼児から中学生まで21人が出場。選手らは、優勝目指し、積極的に投げ技や寝技などを仕掛け、気合いの入った試合を展開していました。大会終了後には、後援会からお汁粉と豚汁が振る舞われ、選手らはペコペコのお腹を満たしました。成績は次の通り。（敬称略）

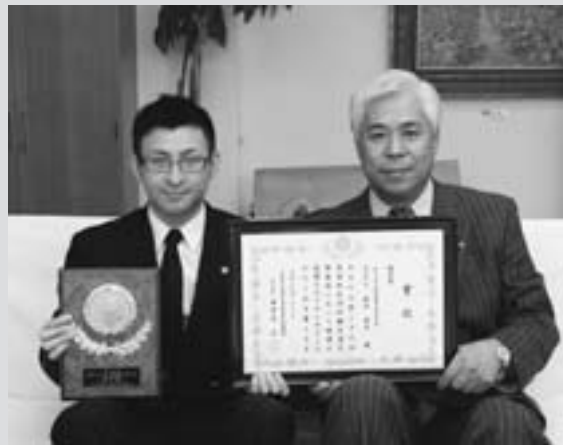
幼児・小学生低学年の部 優勝＝井出景介  
小学生高学年の部 優勝＝成田友美  
中学生の部 優勝＝川島昂也



## 消防職員意見発表会 で優秀賞受賞

1/23

道東地区消防職員意見発表会で最高位の優秀賞を受賞した、本別消防署の鈴木啓友消防副士長が1月23日、役場を訪れ高橋正夫町長に結果を報告しました。この発表会には、道東地区の代表20人が参加。「本当のスタートライン」と題して、現場での経験をもとに救急車の適正利用について発表した鈴木さんは、「緊張したが、練習の成果が出て良かった」と喜びを述べるとともに、4月25日に札幌市で開かれる全道大会では「職場を代表して、精一杯頑張ってきます」と意気込みを語りました。



## 銀河サロンで もちつき交流会

1/26

銀河サロン（三井誠子委員長）による、もちつき交流会が1月26日、アースホールで開催されました。この日は、本別中央小学校たんぽぽ学級の児童5人をはじめ約70人が参加し、10kgのもち米をみんなで力いっぱいついた後、お雑



煮やきな粉など5種類の味を楽しみました。銀河サロンは、子どもから高齢者、障がい者など、幅広い人が集まり毎月開催されており、もちつき交流会は毎年1月の恒例行事になっています。

### 教育目標

力行 力いっぱい学ぶ生徒  
方正 真面目に考え行動する生徒  
錬磨 身も心も鍛える生徒

「本別学びの日」関連事業～光風・実風の中で～  
学校祭、本中強歩、地域参観日など



文化祭「1年制作なでしこジャパン」



伝統行事「本中強歩」



吹奏楽部「定期演奏会」



ふだんの授業も真剣です「2年生理科」

各学校の手作りページ

# HELLO 本別中学校



文化祭「全校合唱」



ボランティア活動  
「フラワーロード」



キャリア教育「職場体験学習」



ほんべつ雪あかりナイト

本別中学校では生徒の頑張る姿を地域参観日、学校日より等で家庭・地域に発信しております。今年も体育祭・文化祭・本中強歩・総合発表会など地域公開の行事がたくさんありました。本年度もあと残り僅かとなりましたが、今後ともご支援・ご協力をよろしくお願い申し上げます。



## 本別町剣道大会 1 29

本別町剣道大会（本別剣道連盟主催）が1月29日、町体育館で開催され、幼児から中学生までの15人が日ごろの鍛錬の成果を競い合いました。会場には選手の気迫のこもった大きな気合と竹刀がぶつかり合う音が響きわたり、技が決まるたびに、チームメートや観客から大きな拍手が送られていました。成績は次の通り。（敬称略）

小学2・4年生の部 優勝＝府川慧哉  
 小学6・中学1年生の部 優勝＝野崎将秀  
 中学3年生の部 優勝＝野崎隼杜



## 雪上ゲームを楽しむ 2 4

少年少女冬のレクリエーションの集い（教育委員会主催）が2月4日、河川運動公園で開催されました。参加した幼児や小学生、保護者約40人は、ラグビーボールリレーや綱引きなど7種目の雪上ゲームを楽しみました。終了後は、町体育館に移動し、豚汁を食べて冷えた体を温めました。



## 学校給食に農大産小麦 使用のパンが登場 1 31

新品種小麦「はるきらり」を使ったパンが1月31日、町内小中学校の学校給食に登場しました。このパンは、北海道立農業大学校（鞍懸周校長）から、「自分たちの作った小麦を学校給食で利用してほしい」と提供のあった50kgの小麦粉を、製パン工場が製造したものです。この小麦は、製パン性に優れ、甘みがあることが特徴で、子供たちは、「風味がいい」「しっとりしている」などおいしそうに頬張っていました。



## 牛乳を使って おいしい料理 2 5

町内の小学生を対象とした牛乳の利用や消費拡大を推進するための牛乳料理教室が2月5日、中央公民館で開催されました。参加した21人は、本別町牛乳消費拡大推進委員会会員の指導のもと、「ぶるるんミルクゼリー」や「ミルクとお豆の簡単むしパン」など牛乳を使った3品を調理。出来上がった牛乳料理は全員でおいしくいただきました。



## 歴史民俗資料館で 体験授業 2 6~7

本別中央小学校（岩野真志校長、272人）の4年生51人が2月6日、7日の2日間、歴史民俗資料館を訪れ、アイヌ民族の体験授業を受けました。この取り組みは社会科授業の一環として実施されたもので、児童らは、同館職員からアイヌの歴史について説明を受けた後、收藏品で当時の生活に触れたほか、スゴロク遊びやイクパスイ（神と対話する道具）作りを体験するなど、真剣な表情でアイヌについての理解を深めました。



## 全国スケート大会 出場報告 2 6

1月21日から24日まで、群馬県渋川市で開催された、全国高等学校スケート競技選手権大会の500Mと1000Mの2種目に出場した藤本優さん（本別高1年）が2月6日、教育委員会を訪れ、教育長に大会での奮闘を報告しました。報告で藤本さんは「今回は、他校と一緒に大会に参加した。同レベルの選手と共に行動することによって、競技への意識を高く持てた。また来年に向けてタイムを縮めたい」と来季に向けての抱負を話しました。



## ジャンプバレー少年団 新人戦優勝報告 2 7

2月4日、5日に芽室町で開催された第16回全十勝小学生バレーボール新人戦女子の部で優勝した本別中央ジャンプスポーツ少年団（谷藤有咲主将）が2月7日、教育委員会を訪れ、中野博文教育長に結果を報告しました。中野教育長は「おめでとうございます。これからも一生懸命頑張ってください」と激励し、選手らは「新人戦で優勝してうれしい。これからもつなげるバレーで頑張りたい。全道大会に出場して、全国大会に行きたい」などと優勝の喜びと今後の意気込みを語りました。同少年団は、この成績で5月に開催される道東大会の出場権を得ました。



## 銀河福祉タウン計画・ 障がい福祉計画地域説明会 2 8

第5期銀河福祉タウン計画と第3期障がい福祉計画策定に伴う地域説明会が2月8日から10日までの3日間、町体育館など町内3会場で開かれ、約30人が出席しました。町から、計画の概要や特徴的な施策、障がいのある人の現状などを説明した後、出席者との意見交換がされました。出席者からは、「高齢者が夢の持てる計画にしてほしい」「冬道でも安心して出掛けられる環境づくりをしてほしい」などと活発な意見や要望が出されました。



情報を広報電算担当へお寄せください ☎22-8121



## 全国大会出場を目指して

2 | 14

標準記録を突破し、2月19日に札幌市で開催される全国JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会北海道予選会に出場する本別水泳スポーツ少年団（及川哲夫代表）員など10人が2月14日、教育委員会を訪れ全道大会への出場報告をしました。選手らは「自己ベスト以上のタイムを出し、全国を目指して頑張ります」「自分の泳ぎができるように頑張ります」などと意気込みを述べました。



大会では、全国出場は果たせなかったものの、個人で篠江拓夢くんが11・12歳クラス背泳ぎの50Mで1位、同100Mで2位、団体では10歳以下クラス女子200Mフリーリレーで2位、同200Mメドレーリレーで3位に入賞しました。

## 町民懇談会

2 | 14・15・16

2月14日、15日、16日の3日間、町議会（方川一郎議長）による議会報告会を兼ねた町民懇談会が町体育館や地区公民館など6会場で開催されました。懇談会では、議会から活動状況などの報告がされた後、参加者から様々な意見や要望が出され活発な意見交換になりました。



## 室内陸上競技会

2 | 12

第32回本別町室内陸上競技会（本別陸上クラブ主催）が2月12日、町ふれあい多目的アリーナで開催されました。競技会には、27種目に町内外の小学生から一般まで約260人がエントリー。選手らは、冬場のトレーニングの成果を出そうと、トラックやフィールドで積極的な競技を展開しました。



## 生活・介護支援サポータースキルアップ研修公開講座

2 | 13

生活・介護支援サポータースキルアップ研修の公開合同講座が2月13日、健康管理センターで実施されました。講座では、「認知証の家族介護の理解について」と題した釧路地区障害老人を支える会の岩淵雅子会長が、これまで出会った家族の事例を交えながら活動内容を紹介。介護者と介護する家族へのケアの大切さや、人のつながりのある社会をつくる必要性を話し、「サポーターや支援員は地域の中で人と人をつなげる人になってほしい」とエールを送りました。このほか、町国保病院藤沢明徳副院長が認知証について講演し、参加した約80人は認知症高齢者やその家族への支援の必要性を学びました。



## 100歳長寿おめでとうございます 町敬老祝い金の贈呈

本別町向陽町の八重原百合さんが2月6日に、本別町栄町の大泉ネネさんが2月10日に、本別町向陽町の田西正芳さんが2月15日に100歳を迎えられ、高橋正夫町長から敬老祝い金7万円と商品券3万円が贈呈されました。

ネネさんは明治45年2月10日本別町活込で生まれ、昭和8年に故勘三郎さんと結婚。家業の農業を営みながら4男2女のお子さんを育て、孫17人、ひ孫27人にも恵まれました。現在、4男の末治さん夫婦と暮らすネネさんは、掃除をしたり畑仕事をするなど身体を動かすことが大好きで「早く外に出たい。春が待ち遠しい」と話してくれました。長寿の秘訣は食事をしっかりとることで、100歳を迎えたことにネネさんは「みんなのお世話

2 | 14



になりながら長生きすることができた。お祝ももらえらると思っていなかったもので、大変うれしい」と笑顔で答え、家族とともに100歳のお祝いをしました。  
※2月14日に贈呈しました。

百合さんは明治45年2月6日本別町で生まれ、昭和10年に故興太郎さんと結婚。早くにご主人を亡くした百合さんは男6人女1人のお子さんを一人で育て、今は孫14人、ひ孫15人にも恵まれました。現在、特別養護老人ホームに入所している百合さんは、100歳を迎えたことに「みんなに苦勞をかけて長生きできました」と喜びを語り、大好きな歌を披露。お祝いに駆けつけた長男の哲也さんは「本別が大好きで、ふるさとで生活できることが長生きの秘訣」と話し、家族に囲まれて100歳をお祝いしました。

2 | 6



正芳さんは明治45年2月15日釧路町で生まれ、家族とともに大正9年に本別町へ移住後、昭和14年に故易子さんと結婚。洋裁業などを営みながら男3人女2人のお子さんを育て、孫7人、ひ孫3人にも恵まれました。これまで大病もせず、良く食べ、良く寝ることが長寿の秘訣という正芳さんは、現在、特別養護老人ホームに入所し、毎日タオルたたみの手伝いをしています。100歳を迎えたことに長男の昭さんは、「ホームのスタッフや周りの皆さんに支えられ元気に100歳を迎えることができた」と話し、正芳さんは「ありがとう」と笑顔を見せ、家族と一緒に100歳のお祝いをしました。

2 | 15



## チーズの可能性再発見! 214

チーズ作りを題材とした、3回目となる「ものづくりフォーラム（農産物ブランドづくり事業）」が2月14日、新得町の共同学舎新得農場 宮嶋望代表を講師に招き中央公民館で開催されました。当日は約30人が参加し、宮嶋講師から「チーズは生乳よりも栄養素を吸収しやすい」など、チーズの良さについての説明を受けながらモッツアレラチーズ作りに挑戦し、作ったチーズをピザにして参加者全員で試食しました。



## 本別町使用料等審議会 215

町公共施設の使用料や手数料を審議する本別町使用料等審議会（岡崎勉会長、12人）が2月15日、役場で開催されました。審議されたのは、「本別町農産物ものづくり館使用料」について。審議会終了後岡崎会長は、審議された意見を答申書にまとめ高橋正夫町長に手渡しました。町はこの答申を受け、4月1日からの実施に向け事務を取り進めていきます。



## もちつきで交流を深める 216

ゆうあいの里運営推進会議（小坂英幸委員長）主催、ゆうゆうサークル運営委員会（山田英雄委員長）、福寿草の会（佐藤猛運営委員長）、いきがい館運営委員会（矢野豊委員長）共催による、もちつき交流会が2月16日、勇足地区公民館で開催されました。会場では勇足小学校の子供たちが、きねと臼を使い「ヨイショ！」の掛け声に合わせてもちをつき、つき上がったおもちは、憩いの会（篠原恵子代表）の協力を得て、あんもちやきなこもち、お雑煮などにしてゆうあいの里利用者や勇足保育所の園児ら約100人でおいしく食べました。



## 昔遊びに歓声 217

「出前資料館昔遊び体験」授業が2月17日、本別中央小学校（岩野真志校長、272人）で開催されました。生活科の授業として1年生36人を対象に実施されたこの取り組みでは、歴史民俗資料館職員が先生になり、まきストーブやアイロン、七輪など昔の生活用品を紹介したほか、図書館ボランティアぶっくる（綾野治男会長）のメンバー7人の協力を得て、おはじやパッチなど5つの昔遊びコーナーを設置。児童らは、歓声を上げるなど楽しみながら昔の生活に触れました。



## 道路の安全が確保されました 216

（株）本別建設工業（佐藤武社長）の職員15人が2月16日、市街地の町道と道道の交差点などの排雪ボランティアを実施しました。交差点や歩道の視界を遮っていた雪山は、ダンプカーやショベルカーなどによって撤去され、排雪された道路は、見通しが良くなり歩行者や通行車両の安全が確保されました。



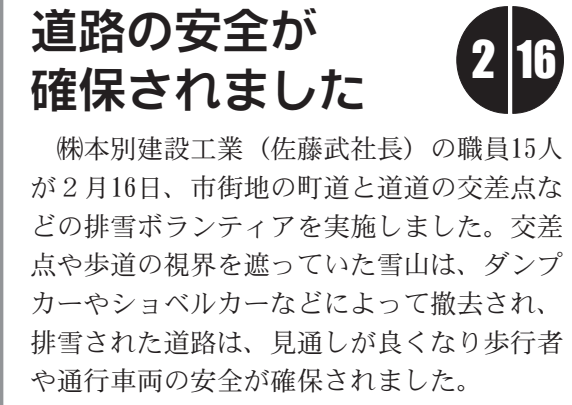
## キンボールで交流 219

本別町スポーツ少年団交歓大会（本別町スポーツ少年団本部主催）が2月19日、町体育館で開催されました。実施種目は直径1.22mのボールをヒットやレシーブを繰り返して得点を競うキンボール。参加した町内少年団の9チーム約60人は、チームメートや父母の声援を受けながら、懸命にボールを追いかけ、さわやかな汗を流し交流を深めました。成績は次の通り。（敬称略）  
第1位=レッド・ソックス 第2位=サムライ・ジャムパン 第3位=本別剣道少年団



## 道路の安全が確保されました 216

（株）本別建設工業（佐藤武社長）の職員15人が2月16日、市街地の町道と道道の交差点などの排雪ボランティアを実施しました。交差点や歩道の視界を遮っていた雪山は、ダンプカーやショベルカーなどによって撤去され、排雪された道路は、見通しが良くなり歩行者や通行車両の安全が確保されました。



# 復興を願って

あの悲劇から  
もうすぐ1年



本別テント前で、豚汁を味わう来場者

1月29日に南三陸町で開催された「復興市（実行委員会主催）」に南三陸町支援隊（黒山久男代表）が参加し、会場で本別産豚肉や手作り豆腐などが入った豚汁を提供しました。  
参加したのは、JA本別町、本別建設業協会、本別町商工会、町議会、町関係者14人。  
会場では、1杯100円で提供された、385食分の「豚汁」に大勢の人が詰め掛け、あっという間に完売しました。復興市には、南三陸町を応援しようと、地元を始め、東京都や長野県などから44団体が駆けつけ、地元の名産品や全国各地の優れた逸品を出品したほか、「お楽しみ抽選付き福まき大会」では、

高橋正夫町長も参加し会場を盛り上げました。豚汁の売り上げ金385000円は全額復興市実行委員会に寄付しました。現地では、あの悲劇からもうすぐ1年を迎えようとしています。まち中のがれきは無くなったものの、人手不足もあり、本格的な復旧はこれから。本別町では、平成24年度も支援を継続していきます。



福まき大会に参加する高橋町長（右から5人目）



右から 黒山代表、高橋町長、佐藤町長

## 表敬訪問

29日に役場仮庁舎を表敬訪問し、町の復興計画について話を聞いたほか、南1丁目自治会からの折り鶴と本別中学校からの南三陸町内3中学校への撤布を手渡しました。佐藤仁南三陸町長は、「皆さんに感謝していることを伝えてほしい」と述べました。

# みんなの健康

331

毎年気温と湿度が下がる冬になると、インフルエンザや急性胃腸炎などのウイルス感染症が流行します。

冬に感染症が流行する訳

## 感染予防のために

○ウイルスが低温・低湿度を好む  
○人の免疫力が低気温に伴う体温低下で弱くなる  
○外気の乾燥に加えて、夏に比べて水分を積極的に摂取しなくなるため、体内の水分量が少なくなる



○冬は外気の乾燥によって、せき、くしゃみの飛沫が小さくなり、飛沫に乗ったウイルスがより遠くまで飛ぶようになるため、一度のせき、くしゃみによる感染範囲が広がる

○人間の体は約60%が水分で、体内の乾燥により喉や気管支の粘膜がカラカラになり、本来粘液でウイルスの侵入を防いでいる喉や鼻の粘膜が傷みやすくなり、ウイルス感染を起しやすくなる

ウイルス感染防止にはこまめな手洗い、うがい、マスクの着用が第一です。室内は加湿器や濡れタオルを干すなどして乾燥を少しでも減らし、外出時はマスクの着用を心掛けてください。喉が空気の乾燥で力サカサになつたら要注意です。適度に喉を潤すために意識的に水分補給をしましょう。特に高齢者や子どもは自主的な水分補給を忘れがちになるので、大人が気を付けてあげることが大切です。

本別町国民健康保険病院  
看護師長 長利留美

# 未来に輝く子どもたち

本別町の未来を担うかわいい星たちです。  
お父さん、お母さんのたくさんの愛に包まれてすくすく元気に育つてね!

北ア丁目  
上出愛子  
(唯マク)



※写真は本人に了解を得た上で掲載しています

## 熱気に包まれた勇足地区公民館まつり 2/18



地域の皆さんが丸となって作りあげている勇足地区公民館まつり(実行委員会主催・佐藤猛実行委員長)が2月18日、同公民館など3会場で開催され、30回目の節目を迎えた今年、これまでの歴史を振り返る展示や、映像上映のほか、南三陸町震災復興支援ハンマープライスチャリティーオークションも実施されました。



開会式では佐藤実行委員長が「家族、友達、地域の絆、人と人とのつながりが大切。このまつりから元気を発信していきましょう」とあいさつ。会場には子どもからお年寄りまでの力作約380点の作品が展示されたほか、昼と夜の2部構成で行われた芸能発表では、29組の出演者による歌や踊りなどの多彩な演出にたくさんの方の声援が送られ、会場は熱気に包まれました。このほか、カルタ大会、ゲートボール大会、バザーなどもにぎわいを見せ、地域全体が楽しんだ一日となりました。

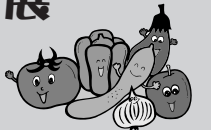
# 銀河ホップアラウンド

## 足寄町

### 第37回 足寄町消費生活展

3月25日(日)  
午前10時～正午

足寄町民センター  
足寄町消費生活センター  
リサイクルショップピングコーナ  
ご家庭から提供していただいた品を安価で販売します



・農畜産物消費拡大コーナー  
豆類、野菜類等の農畜産物を販売します  
・郷土物産販売コーナー  
足寄町特産の鰯湾ブリの加工品やあしよる農産公社チーズなどの販売を行います

※このほか技能士会奉仕(包丁研ぎ)や旭町ふれあいプラザ陶芸木彫クラフによる作品展示販売など各種コーナーが盛りだくさんです

詳細 足寄町役場住民課住民生活担当  
☎2512141 内線225

## 陸別町

### プラネタリウム上映中

銀河の森天文台では、ドーム型のプラネタリウムでオーロラの番組を上映中です。

上映日 開館日の土・日曜日

※月・火曜日は休館日です

上映時間 午後3時、午後5時、午後8時の3回

※1回30分程度の上映になります

定員 各回20人(先着順)

※入館料のみで観覧できます

#### 入館料

《昼間》 大人 300円  
小人(小・中学生) 200円  
《夜間》 大人 500円  
小人(小・中学生) 300円  
※小学生未満 無料

#### 開館時間

《昼間》  
4月～9月 午後2時～午後6時  
10月～3月 午後1時～午後5時  
《夜間》  
4月～9月 午後6時～午後10時30分  
10月～3月 午後5時～午後9時30分  
《問い合わせ》  
銀河の森天文台 ☎2718100

## ご寄付ありがとうございます 平成24年1月31日から2月8日

次の通りご寄付をいただきました。  
紙上をかりて厚くお礼申し上げます。(敬称略)

★本別町国民健康保健病院医療施設等整備基金指定  
金100,000円……………美里別高東 幕内ヤス子

個性あるふるさとづくり寄付条例による寄付  
金200,000円……………幕別町 故 鈴江正治  
鈴江恵美子

〈内訳〉

- ★福祉でまちづくり推進事業……………金40,000円
- ★日本一の豆を生かした農産物加工体験施設整備事業…金40,000円
- ★自然との共存・環境保全推進事業…金40,000円
- ★資料館特別展示「わが町の七月十五日展」開催事業…金40,000円
- ★本のまち・夢プラン事業……………金40,000円

# 本のある暮らし 132

# 本いっぱい！ 待ってたよ～

## 戸籍のまど

### お誕生

1月後半から  
2月前半の  
届出分

- 林 美伶<sup>みれい</sup> 翔一<sup>しょういち</sup> 美空<sup>みそら</sup> 1/6 勇足西4
- 吉田 祥<sup>あきら</sup> 敬<sup>あかね</sup> 1/12 北穂自治会
- 笠原 麟<sup>りん</sup> 淳<sup>あつし</sup> 陽子<sup>あやこ</sup> 1/17 北8丁目
- 山田 知空<sup>ちそら</sup> 浩司<sup>こうじ</sup> 雅美<sup>みやみ</sup> 2/9 向陽町

### おくやみ

- 小川 章<sup>あきら</sup> 84歳 1/22 押 帯
- 佐々木佐一<sup>ささきさくいち</sup> 77歳 1/25 北8丁目
- 泉野キヨ子<sup>いずのきよこ</sup> 85歳 1/29 向陽町
- 式見美千慧<sup>しきみみちるみ</sup> 90歳 1/29 美里別東上
- 倉川喜三郎<sup>くらがわきさぶろう</sup> 85歳 1/30 南1丁目
- 高橋 忠之<sup>たかはしただゆき</sup> 70歳 2/1 北8丁目
- 寺島 利雄<sup>てらしまりゆう</sup> 67歳 2/2 美里別東下2
- 毛利シミ子<sup>もうりしみこ</sup> 87歳 2/2 仙美里元町
- 糊澤 大二<sup>こわたにだいじ</sup> 92歳 2/3 錦 町
- 三崎 ミツ<sup>さきみつ</sup> 91歳 2/3 チエトイ2
- 佐々木 喬<sup>ささきたけし</sup> 18歳 2/10 北2丁目
- 濱 名ひろ<sup>はまなひろ</sup> 88歳 2/11 美里別西中
- 中道 ツヤ<sup>なかみちつや</sup> 93歳 2/12 東 町
- 月井 恵美子<sup>つきいけみこ</sup> 72歳 2/13 南2丁目

## わたしたちのまち

前月比  
 人口 **8,223人(-2)**  
 男 **4,048人(-5)**  
 女 **4,175人(+3)**  
 世帯数 **3,861戸(+2)**  
 〔1月末日住民基本台帳〕

小学校に図書館の本を届ける「ミニ図書館」。日ごろ町図書館をなかなか利用できない子どもたちにも、たくさんの本とふれあってもらうため、年に3回、各学校に毎回150冊以上を配本しています。

どの学校でも、本が届くとみんなとてもいい笑顔。待っていてくれて、ありがとう！いっぱい読んで、もっともっと本と仲よくなってくださいね。



本別中央小学校図書室のくつろげる読書スペースでは、ブック委員さんが本をきれいに並べてくれます  
「いい本、みーっけ！」



仙美里小学校図書室では、図書委員さんが貸出・返却をしっかりとこなしています  
「今日は、3冊ですね？」



勇足小学校では、みんながよく通る階段スペースに書架があり、気軽に読むことができます  
「この絵本、楽しい！」

お問い合わせ先  
**本別町図書館**  
 (愛称:ぶつくる一丸)  
 本別町北2丁目 ☎・FAX 22-5112